

季節の移り変わりを知らせる鳥とセミ

サシバ（方言名：タカ） 学名：*Butastur indicus*

寒露と言われる10月始め頃から飛来するタカの仲間です。春から夏にかけて本州で繁殖し、越冬するために暖かい東南アジアなどに渡ります。慶良間諸島は中継地点ですが、中には越冬する個体もいます。全長約50cmで羽を広げると1mを超えます。「チンミー」と高い声で鳴き飛ぶ姿は、慶良間諸島に秋の訪れを知らせます。昔の島の子どもたちからは「チンミー」と呼ばれ、親しまれてきた鳥です。

リュウキュウアカショウビン（方言名：コカル） 学名：*Halcyon coromanda*

4月頃、繁殖のため慶良間諸島に飛来します。「キョロロローキョロロロー」という特徴的な鳴き声が、谷沿いの薄暗い林内から朝夕、特によく聞こえます。全長約30cmで、体の割に太く鮮やかな赤色のくちばしで、体の上面は赤褐色、背中に濃い紫色の光沢があります。体の下面は橙色でとても美しい鳥です。森に響く美しい鳴き声は梅雨入りを知らせます。

リュウキュウアブラゼミ 学名：*Graptopsaltria bimaculata*

集落近くで6月頃鳴きはじめ、「ジリジリジリジー」という声が数多く聞こえるようになると梅雨明けも間近です。分布は奄美諸島から沖縄本島周辺で琉球列島の固有種です。体長約5cmで翅の色はやや明るい茶色です。人が近づくと鳴くのやめて飛び立ってしまうので探すことが難しいセミかもしれません。

クロイワツクツク 学名：*Meimuna kuroiwae*

海岸沿いの低地などで夏の終わり頃「ジーワジーワ」と鳴きはじめ、秋の訪れを感じさせます。鹿児島県佐多岬から沖縄本島周辺にかけて分布し、体長約3.5cmほどで他のセミと比べてスリムな体型をしています。翅は透明で背中の暗い黄緑色のまだら模様が特徴的です。近づいても鳴き止まず、逃げないことが多いので、近くで観察することができます。

クマゼミ *Cryptotympana facialis*

6月中旬頃、集落などで午前を中心に「シャアシャア」と大きな声で鳴き、梅雨明けを知らせます。以前は西日本以南が主な棲息地でしたが、次第に北上し関東地方にまで分布を広げています。体長約6~7cmで日本産セミのうちヤエヤマクマゼミに次ぐ最大種で、光沢の強い黒い大きな体に透明な翅を持ちます。人が近づいても逃げないので、近くで観察することが容易なセミです。

